

## 卒業生の歩み

10 MB

昭和34年卒業 梅田 清永

後輩たちへ

世の中の流れは時々刻々と変化している。  
この変化を前向きに捉え、自分が どの様な方法で社会へ貢献するか  
考えよう。

先生方へお願い

目的意識を持って勉強するよう、生徒を教育・ご指導下さい。

卒業後の歩み

- ・ 昭和34年4月 東京 芝浦にあった 萱場工業(株)へ入社。研究課へ配属。油圧機器の開発に従事。
- ・ 昭和36年4月 芝浦工業大学 機械工学科(2部:5年制)へ入学。
- ・ 昭和41年3月 芝浦工業大学 機械工学科を卒業。
- ・ 昭和45年 神奈川県 相模原市へ移転。鉄道貨物操車場の自動化 油圧装置の開発を担当。
- ・ 昭和56年 潜水艦救難母艦『ちよだ』に搭載する水中油圧装置を設計。
- ・ 昭和58年から昭和63年 三重県 津市にある 三重工場へ単身赴任。そこで 補給艦『とわだ』『ときわ』『はまな』に搭載する洋上補給装置および艦内移送装置用の油圧装置の設計に携わる。この3艦は現在インド洋で活躍中。
- ・ 平成元年 三重工場から東京 浜松町 世界貿易センターの装置営業部へ転勤。技術営業を兼ね 造船所、防衛庁をお客様とする 営業活動を展開。
- ・ 平成12年9月 満60歳の定年を迎えたが、その後常勤嘱託で3年6ヶ月勤務。平成16年3月 45年6ヶ月を勤務した カヤバ工業(株)を退職。

近 況

自分は貧乏性なのか、本年8月から ある私立病院の営繕係で活躍中。

写真は艦隊行動中の補給艦 『はまな』(中央の艦番号 424)

